



HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	北海道大学法学会記事
Citation	北大法学論集, 66(2), 39-40
Issue Date	2015-07-31
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/59595
Type	other
File Information	lawreview_vol66no2_02.pdf



北海道大学法学会記事

〇二〇一五年三月九日（月）午後三時より

「アメリカの奴隷制問題の補償救済について——相対立する議論」

(Redressing American Slavery: Opposing Arguments)

報告者 ロイ・ブルックス氏

(サンディエゴ・ロースクール・ウォーレン特別教授)

※参考文献: Roy Brooks, *Atonement and Forgiveness: A New*

Model for Black Reparations (U. California Press, 2004)

出席者 二〇名



戦中の日系アメリカ人の収容問題がそうである)。ところが二四〇年間ものアフリカ系アメリカ人に対する奴隷制及びそれに続く一〇〇年間もの人種差別立法については、そうした謝罪・補償がなされていない。

どうしてそうなのか。ここでは、奴隷制及びそれに続く差別立法に関する補償救済に関して、賛成・反対の両方の立場からの論拠を検討する。それを通じて、聴講者にアメリカの奴隷制補償問題に関する十分な情報を提供し、その救済の意義について、米国のみならず、その他の諸外国においても結論を下せるようにさせたい。』というシラバスのもとに、本講演は、進められた。

二、同教授は、さまざまなアメリカ補償法学の議論の中でも、支配的な《不法行為モデル》(tort model) に対して、道義的補償・立法的補償・未来志向的解決を重視する《償いモデル》(atonement model) を提唱し、問題提起した論者として、この領域のリーディングスカラー的地位を占めているが、奴隷制補償論のさまざまな否定論に対して、どのような反論を展開しつつ、積極論を論じていくのか、興味津々の思いで、聴講者は議論の展開に引き込まれるような講演であった。

例えば、第一に、奴隷制補償に関しては、それを調達したア

フリカの諸部族の責任も問題になるし、過去の被害に拘束されるのではないかという反論については、問われているのはアメリカ政府の責任であるし、それは道義的償いが問題とされ、未来志向的な関係形成に関わり、過去志向的に拘束されるものではないとする。第二に、一九六〇年代の公民権立法で償われたのではないかという反論に対しては、同立法は福祉問題に関する《対称的 (symmetrical) な》措置が採られたのに対して、補償においては、あくまで被害に対する《非対称的 (asymmetrical) な》救済措置が問われるという意味で違いがあるし、第三に、経済的に奴隷制により資本主義社会は豊かなり、それでよいのではないかという反論に対しては、ここでは人種搾取ないし差別立法の反倫理的な側面が問われていて、その面での《有徳な社会》(virtuous society) に向けての解決がなされなければいけないとされた。

三、さらに第四に、議論が集中したのは、同教授での枠組みでは、奴隷補償は、訴訟的解決というよりも、立法的解決（ないし行政的解決）でなされるべきだとするところだった。その立論では、訴訟においては、法技術的制約があり、その対審構造ゆえに、倫理的な償いの側面が薄れてしまうといわれるのだが、

慰安婦問題に代表されるような日本の戦後補償問題の解決を見ても、立法的解決（例えば、わが国会による誠実な謝罪決議など）は保守政権のもとではあまり期待できず、その意味で訴訟にはそれなりの意義があるのではないかという議論も出された。しかし公民権運動もそうであるように、立法の場での長期的な辛抱強い議論・苦闘の継続が必要とされたので、やや平行線の感があった。その際に第五に、救済の中身は、教育・福祉・事業支援など広範にわたるということも議論された。

四、本研究会はすべて英語で行われた。それにも拘らず、学際的な質疑討論が多数出されて、時間が足りなくなるほどで、ブルックス教授をして《アメリカ以外でこのような詰めた議論ができたのは、今まで経験したことがない》と言わしめる水準のものであった。この法学会に出席し、積極的に議論してくださいと諸氏に対して厚くお礼申し上げる次第である。また本法学会は、いわゆる北大トップコラボ事業の一環で行われ、北大法理論研究会、北大民法理論研究会、そして北大高等法政センター研究会の共催として御協力を得た。関係各位に厚くお礼申し上げます。

（文責 吉田邦彦）